# 「カテキズムの学び」

## 第35回「盗んではならない」(後半)

５月26日に十戒の第７の掟である「盗んではならない」の後半を学びました。講座の様子は上のQRコードから視聴できます。

「盗んではならない」という掟は、盗みを禁じるだけでありません。第６項「貧しい人々への愛」では、貧しい人々を助けることは「良いこと」ではない、とカテキズムは教えます。もちろん「悪いこと」ではありませんが、それは「当たり前のこと」、いえそれ以上に「やるべきこと」だというのです。そのことを、二人の聖人の言葉を引用して説明しています。

> 聖ヨハネ・クリゾストモは、このことを厳しいことばで次のように述べています。「自分の財産を貧しい人々に分かち与えないとすれば、それは貧しい人々のものを盗むことになり、彼らの生命を奪うことになります。わたしたちが持っている物はわたしたちのものではなく、貧しい人々のものです」。(2404番)
>
> 「貧しい人々に何か必要な物を与えるとき、わたしたちは自分のものを寛大に与えているわけではありません。彼ら自身のものを彼らに返しているだけです。そのときには、愛の行為を果たしているというよりも、正義の義務を果たしているのです」(聖グレゴリオ１世)(同)

クラスの最後に『カテキズム要約』が述べる14の慈善のわざを紹介しました。

**【七つの身体的な慈善のわざ】**

1. 飢えている人に食べさせる。
2. 渇いている人に飲み物を与える。
3. 着る物をもたない人に衣服を与える。
4. 宿のない人に宿を提供する。
5. 病者を訪問する。
6. 受刑者を訪問する。
7. 死者を埋葬する。

**【七つの精神的な慈善のわざ】**

1. 疑いを抱いている人に助言する。
2. 無知な人を教える。
3. 罪人を戒める。
4. 悲嘆にうちひしがれている人を慰める。
5. もろもろの侮辱をゆるす。
6. 煩わしい人を辛抱強く耐え忍ぶ。
7. 生者と死者のために神に祈る。

慈善のわざのどれかを毎日実践できれば、まことのキリスト者と言えるでしょう。

(文　酒井俊弘補佐司教)

# 新しくなる典礼④「ミサ」が変わってしまうの？

## 『新しい「ミサの式次第と奉献文」の変更箇所』

### ～ 2022年11月27日(待降節第Ⅰ主日)からの実施に向けて ～

「ミサ」が変わるということではなく、「ミサの式次第と奉献文」のことばや所作が変わるところがあることがわかりましたね。それでは、式次第に沿って、「ことばの典礼」の確認をしましょうね。

朗読奉仕の時のことばや所作が、これからは日本中で統一されるのね。

**【ことばの典礼】**

1．第一朗読、第二朗読

朗読者は、朗読が終わると、朗読の終わりを示すため、手を合わせてはっきりと「神のみことば」と唱えます。

朗読者：神のみことば。

会　衆：神に感謝。

朗読者は聖書に一礼して席に戻ります。

その後、一同は沈黙のうちに神のことばを味わいます。

2．アレルヤ唱（詠唱）

3．福音の崇敬と朗読

司　祭：主は皆さんとともに。

会　衆：またあなたとともに。

司　祭：○○○による福音。(そのとき、朗読福音書、額、口、胸に十字架のしるしをします)。

(会衆も、司祭と同時に、額、口、胸に十字架のしるしをして)

会　衆：主に栄光。(はっきりと唱えます)。

福音朗読が終わると、司祭は朗読福音書を両手で掲げてはっきりと唱えます。

司　祭：主のみことば。

＊福音朗読が主キリストのことばであることを明確にするため、「主のみことば」と訳し、第一(第二)朗読後の「神のみことば」と区別しています。

会　衆：キリストに賛美。

4．説　　教

すべての主日と守るべき祝日には、司祭あるいは助祭によって説教が行われます。他の日にも勧められています。

5．信仰宣言

すべての主日と祭日、および盛大に祝われる特別な祭儀に、一同は「ニケア・コンスタンチノープル信条」、あるいは「使徒信条」を歌うかまたは唱えて信仰宣言を行います。

＊「ニケア・コンスタンチノープル信条」でも「使徒信条」においても、キリストの受肉の神秘について述べる部分で、一同は礼をすることが明記されました。

(文・絵　大阪教区典礼委員会)

# 訃報

Srベルナデッタ菅原由紀子(パリミッション女子会)は５月12日、老衰のため仁豊野ヴィラにて帰天。83歳。中国北京出身。奉献生活56年。

1966年、同会入会。修練期を大阪で一年過ごした後、さいたま教区内で司牧に携わり、特に80年代のインドシナ難民を受け入れていた群馬県前橋市の「あかつきの村」でベトナム難民の生活支援に従事した。

2005年、がん切除手術を行ってから療養生活を始め、2014年に仁豊野ヴィラへ転居して療養を続けた。亡くなる一時間前まで職員と会話をしていたが、穏やかな表情で静かに眠るように帰天した。

大阪教区のカトリック病院
ガラシア病院
特徴的な医療
ホスピス（緩和ケア）
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科
医療法人ガラシア会
理事長　前田万葉 大司教
チャプレン　松本信愛 神父
〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎ 072-729-2345
医療法人ガラシア会

# 「生きる」―難民支援者

## 谷間に置かれた人びとの心を生きるアリさん

いまアフガニスタンからイランに逃れた難民は80万人と言われます。

アリさんは、かつてシナピスがアフガニスタンを視察した時の通訳兼ボディガードとして働いてくれた恩人です。彼も妻と６人の子どもを抱えてイランに退避しました。アリさんがシナピスに縁のある人とはいえ、特定の一家族だけを援助する予算はありません。私はアリさんと20年来の良き仲間として繋がっていますから、個人的に集めて細々と送金しています。

ある時、アリさんにイランでの生活状況を尋ねたところ、日本からのカンパだけが命綱だから、そこから周囲の人びとや現地に残る親戚の子どもたちにも分配していることが分かりました。「自分たちだけが食べるのは我慢できないからです」と言って、アリさんは外へ出かけていき、携帯電話から私に人びとの姿を見せました。床に横たわる高齢者、声も笑顔もない女性とこどもたち。「この人たちは昨日アフガニスタンから着いたばかり。このお婆さん、病気、薬ない。子ども、おなかすき過ぎて声出ない」。私はどれくらいの援助が必要なのか尋ねました。「今すぐ助けないと危ない人が22家族。40万円あったら命、助かる」。今すぐ40万円。私は天を仰ぎました。

イランにたどり着いた避難民

その翌日、不思議な出来事がありました。名も知らぬ方が「祈っています」と手紙を添えて多額の寄付を下さったのです。私はそのうちの40万円をイランへ送金しました。

数日後、アリさんは再び動画で、手を振る子どもたちや胸に手を当てて挨拶をする高齢者たちを見せてくれました。アリさんは「皆、その日本の人にありがとうと言ってる」と弾んだ声で通訳をしてくれました。「これからも毎日一番困ってる人、探す。国連が入らない所の人たち。日本人のお金、ちゃんと薬と食べ物になる。篤子さん、日本人に言ってね、このお金で皆幸せ。生きる希望が出る」。

アリさんの後ろの数百人が助かるのなら、私は喜んでお金を集めよう、と俄然やる気が出てきました。

(文　シナピス事務局　ビスカルド篤子)